



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 旭有機材株式会社

コード番号 4216 URL <https://www.asahi-yukizai.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員CEO (氏名) 中野 賀津也

問合せ先責任者 (役職名) コーポレートコミュニケーション室長 (氏名) 岩切 栄人 TEL 03-5826-8820

配当支払開始予定日 ー

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績(2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	21,114	5.5	2,338	8.1	2,481	15.2	1,617	18.9
2026年3月期第1四半期	20,009	△1.1	2,163	△22.8	2,153	△28.5	1,360	△24.9

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 2,182百万円(ー%) 2026年3月期第1四半期 △584百万円(ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	86.04	ー
2026年3月期第1四半期	72.40	ー

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2027年3月期第1四半期	110,428	82,667	74.2	4,357.76
2026年3月期	108,582	81,593	74.5	4,305.90

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 81,913百万円 2026年3月期 80,882百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	ー	60.00	ー	60.00	120.00
2027年3月期	ー				
2027年3月期(予想)		65.00	ー	65.00	130.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	43,000	7.9	3,900	△10.4	4,000	△10.0	2,700	△10.3	143.69
通期	90,000	12.4	8,500	12.1	8,700	9.3	6,100	83.4	324.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 一、 除外 一社 (社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 7 「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2027年3月期1Q	19,800,400株	2026年3月期	19,800,400株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	1,003,283株	2026年3月期	1,016,508株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2027年3月期1Q	18,790,526株	2026年3月期1Q	18,783,323株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人 : 無
によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(四半期連結損益計算書)	5
(第1四半期連結累計期間)	5
(四半期連結包括利益計算書)	6
(第1四半期連結累計期間)	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

（1）経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の国内経済は、緩やかな回復基調が続き、設備投資需要も省人化・効率化投資を背景に底堅く推移しました。

海外では、米国でAI・半導体・インフラ関連を中心に設備投資が堅調に推移した一方、中国では内需低迷の長期化を背景に、設備投資は力強さを欠く状況が続きました。

このような環境の下、当社グループを取り巻く事業環境は、国内では中東情勢を背景とした在庫確保需要や、米国における半導体工場建設投資の回復などにより、主力製品を中心に販売が伸長し、増収増益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は21,114百万円（前年同期比+5.5%）、営業利益は2,338百万円（前年同期比+8.1%）、経常利益は2,481百万円（前年同期比+15.2%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,617百万円（前年同期比+18.9%）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① 管材システム事業

管材システム事業は、樹脂バルブを主力製品として樹脂管材市場を拡大することを基本戦略としています。耐食問題の解決と樹脂管材の機能性を追求し、お客様へのお役に立ちに貢献する活動を推進しています。

樹脂バルブ等をはじめとする基幹製品は、国内では、中東情勢の影響による在庫確保の動きを背景に主力製品の需要が拡大したほか、米国における電子産業関連投資の拡大に伴う需要増を取り込んだことで、増収となりました。

樹脂配管材料等を用いたエンジニアリング事業におきましては、一部案件の進捗に遅れが見られたものの、受注済案件を着実に推進したことにより、概ね堅調に推移しました。

ダイマトリックス製品に関連する半導体製造装置市場におきましては、中国における需要に一服感が見られたものの、メモリー需要の高まりを背景に、主に韓国において需要回復の兆しが見られました。

利益面では、売上高の増加に加え、原材料価格上昇に対応した価格転嫁を進めたことにより、増益となりました。

この結果、当セグメントの売上高は13,769百万円（前年同期比+13.9%）、営業利益は2,319百万円（前年同期比+25.4%）となりました。

② 樹脂事業

電子材料製品は、低メタル化技術を追求し、半導体の高度化に貢献しております。

半導体市場は総じて底堅い需要環境が続きました。また、中東情勢等を背景とした原材料供給の不安定化や調達コスト上昇が発生しましたが、サプライヤーとの緊密な連携や複数購買化を推進することで安定調達を維持し、お客様への供給を滞らせることなく対応いたしました。

一方、一部顧客では在庫調整が継続したことにより、前年同期比で減収となりました。

素形材製品は、国内外の自動車関連需要は堅調に推移したものの、中東情勢を背景とした原材料供給不安や調達コスト上昇の影響を受けました。このような状況の中、サプライヤーとの連携強化や複数購買化を推進することで安定した原材料調達を維持するとともに、原材料価格上昇に対応した販売価格改定を実施いたしました。

また、成長市場であるインドにおいては、需要拡大への対応と供給体制強化を目的としてレジンコーテッドサンド（RCS）第二工場の建設に着手しており、中期経営計画GNT2030に基づく事業基盤強化を進めております。

これらの取り組みにより、高付加価値製品の販売拡大と適正な価格転嫁を推進したことにより、前年同期比で増収となりました。

発泡材料製品は、建築現場での施工によって最終製品となることから、施工品質向上への取組みを通じてお客様へ安心・安全を提供しております。

住宅市場ではマンション着工件数の減少が継続したものの、トンネル掘削向けを中心とした土木材料の需要が好調に推移いたしました。また、中東情勢等に起因する原材料供給不安や調達コスト上昇に対し、安定調達の確保と迅速な販売価格改定を進めた結果、顧客への安定供給を継続するとともに収益性の改善を実現し、前年同期比で増収となりました。

利益面では、前年同期にランドウィック社で高利益率の追加工事案件の寄与があった反動により、前年同期比で減益となりました。

この結果、当セグメントの売上高は6,061百万円（前年同期比+0.1%）、営業利益は214百万円（前年同期比△42.1%）となりました。

③ 水処理・資源開発事業

水処理事業では、水処理設備の設計・施工や、水資源を有効に活用できる水再生システムの構築に取り組んでいます。また、施設や設備の安定稼働を支える維持管理サービスや環境改善薬剤の提供にも注力しています。

官庁案件、民間案件ともに、大型施工案件の減少の影響により減収となりました。

資源開発事業は、再生可能エネルギーである地熱発電の蒸気井などの掘削工事や温泉開発工事を行い資源の有効活用に貢献しています。

温泉掘削案件、地熱掘削案件ともに工事の着工および進捗の遅延が発生した影響により、前年同期比で減収となりました。

利益面では、水処理工事、温泉・地熱掘削工事の減収により、前年同期比で減益となりました。

この結果、当セグメントの売上高は1,285百万円（前年同期比△31.2%）、営業損失は184百万円（前年同期の営業損失は34百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産は110,428百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,846百万円増加しました。これは主に現金及び預金などの流動資産の増加によるものです。負債は27,761百万円となり、前連結会計年度末に比べ772百万円増加しました。これは主に長期借入金などの固定負債の増加によるものです。純資産は82,667百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,074百万円増加しました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益や為替換算調整勘定が増加したことによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2026年5月15日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,228	24,538
受取手形、売掛金及び契約資産	12,470	12,329
電子記録債権	7,295	7,575
棚卸資産	21,448	21,118
その他	1,756	1,697
貸倒引当金	△52	△52
流動資産合計	66,146	67,205
固定資産		
有形固定資産		
土地	5,121	5,290
その他（純額）	24,912	25,917
有形固定資産合計	30,034	31,207
無形固定資産		
のれん	664	645
その他	2,424	2,427
無形固定資産合計	3,088	3,072
投資その他の資産		
投資有価証券	4,571	4,342
退職給付に係る資産	3,691	3,638
その他	1,074	985
貸倒引当金	△22	△22
投資その他の資産合計	9,315	8,943
固定資産合計	42,436	43,222
資産合計	108,582	110,428
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,022	5,300
電子記録債務	3,538	3,275
短期借入金	2,800	2,800
未払法人税等	747	784
その他	5,314	5,434
流動負債合計	17,422	17,594
固定負債		
長期借入金	3,692	4,507
退職給付に係る負債	2,150	2,150
株式給付引当金	114	99
役員株式給付引当金	196	198
長期前受金	1,195	1,178
その他	2,221	2,036
固定負債合計	9,567	10,167
負債合計	26,989	27,761
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	8,537	8,537
利益剰余金	61,430	61,911
自己株式	△2,766	△2,738
株主資本合計	72,201	72,710
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,992	1,837
為替換算調整勘定	5,987	6,686
退職給付に係る調整累計額	702	680
その他の包括利益累計額合計	8,680	9,203
非支配株主持分	711	753
純資産合計	81,593	82,667
負債純資産合計	108,582	110,428

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第 1 四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 6 月 30 日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 2026年 4 月 1 日 至 2026年 6 月 30 日)
売上高	20,009	21,114
売上原価	12,299	13,059
売上総利益	7,710	8,055
販売費及び一般管理費	5,547	5,718
営業利益	2,163	2,338
営業外収益		
受取利息	51	40
受取配当金	38	73
為替差益	—	17
不動産賃貸料	29	29
出資金運用益	0	—
その他	21	20
営業外収益合計	138	178
営業外費用		
支払利息	14	18
不動産賃貸費用	11	11
為替差損	119	—
出資金評価損	—	0
その他	4	6
営業外費用合計	148	35
経常利益	2,153	2,481
特別利益		
固定資産売却益	—	2
特別利益合計	—	2
特別損失		
固定資産除却損	4	18
事業構造改善費用	—	3
工事遅延損害金	—	9
特別損失合計	4	30
税金等調整前四半期純利益	2,149	2,452
法人税等	765	800
四半期純利益	1,384	1,652
非支配株主に帰属する四半期純利益	24	35
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,360	1,617

（四半期連結包括利益計算書）

（第1四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2026年4月1日 至 2026年6月30日）
四半期純利益	1,384	1,652
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	84	△155
為替換算調整勘定	△1,500	706
退職給付に係る調整額	△552	△21
その他の包括利益合計	△1,967	530
四半期包括利益	△584	2,182
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△593	2,140
非支配株主に係る四半期包括利益	9	42

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損益の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表 計上額
	管材システム 事業	樹脂事業	水処理・資源 開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,087	6,056	1,867	20,009	—	20,009
セグメント間の内部売上高 又は振替高(注) 2	63	1	2	66	△66	—
計	12,150	6,057	1,868	20,075	△66	20,009
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は損失(△))	1,850	369	△34	2,185	△22	2,163

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分されない全社費用であります。

2. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II. 当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損益の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表 計上額
	管材システム 事業	樹脂事業	水処理・資源 開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,769	6,061	1,285	21,114	—	21,114
セグメント間の内部売上高 又は振替高(注) 2	3	2	0	5	△5	—
計	13,772	6,063	1,285	21,119	△5	21,114
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は損失(△))	2,319	214	△184	2,349	△11	2,338

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分されない全社費用であります。

2. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2026年4月1日 至 2026年6月30日）
減価償却費	815百万円	835百万円
のれんの償却額	19 〃	19 〃